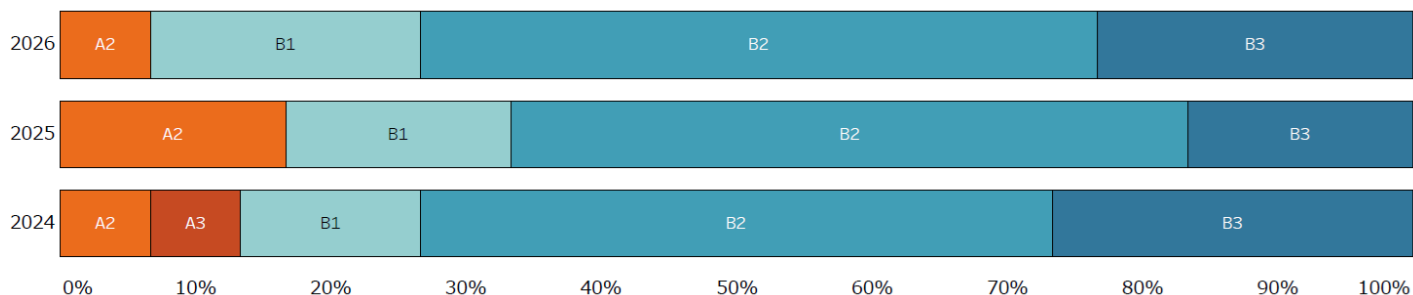


2026 年 麻布 算数

過去 3 年の思考コード別出題割合は次のようになります（A は基礎的な知識・技術、B は論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。高度な論理的思考力が求められる B2、B3 の問題が半数以上を占めています。2025 年は大問 5 題構成でしたが、2026 年は大問 6 題構成となりました。平面図形、速さ、場合の数など、麻布で頻出の分野があるため、過去問研究に取り組み、問題の着眼点を確認しておきたいです。



大問 1 は、平面図形の問題でした。「面積の和」に注目する問題は、麻布でよく見られます。大問 1 に配置されていますが、手がかりがつかめず焦った受験生も多かったと思います。一旦後回しにして、後で取り組み直してもよいと思います。五角形 ABCDE の面積が求められるので、内部を 5 つの三角形に分割して考えます。「三角形 ABP の面積 = 三角形 APE の面積 + 三角形 CPD の面積」に着目するのがポイントです。大問 2 は、麻布で頻出の食塩水の問題でした。2026 年は、3 種類の食塩水の順次混合でした。最後にできた A に着目して、混合の手順をさかのぼっていくことで、比較的スムーズに答えにたどり着くことができます。ただし、途中の値が複雑になるため、計算には注意が必要です。確実に得点しておきたい問題です。

大問 3 は、通過算の問題でした。麻布で頻出分野となるため、対策をしてきた受験生も多かったと思います。が、少しひねってあるため注意が必要でした。(1)では、A、B どちらも「列車 B の長さ分だけ進んだ」点に注目します。(1)で求めたことが、(2)、(3)とつながっていきます。流れに乗って確実に得点しておきたいところです。大問 4 は、場合の数の問題でした。おもちゃの電車のつなげ方を調べます。電車のつなげ方、作り方に注意が必要でした。特に「全体を逆順にした列車はもとの列車と同じ作り方と考えると」がやっかいでした。この点に注意して(1)を確実に得点しておき、(2)は見送ってもよいかもしれません。

大問 5 は、平面図形の問題でした。円を切り分けて、長さが等しい部分を考えます。(1)は、切り分けた分を円の中心と結び、おうぎ形にして考えます。(2)は、サシスセの形がバラバラで考えづらいため、それぞれを直線で円を 4 等分した形に置き換えて考えるとよいと思います。大問 6 は、麻布らしい調べる問題でした。「操作」の通りに調べていきますが、かなり手間がかかるため、(1)、(2)を確実に得点して、(3)まで取ればよいかなと思います。

大問 1、大問 2、大問 3、大問 4(1)、大問 5(1)、大問 6(1)(2)を確実に得点しておき、残りの時間を自分が取れそうな所に注力すれば、7 割は確保できると思われます。